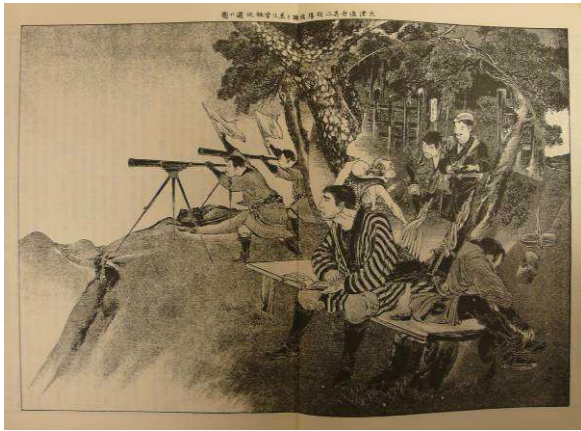


六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol. 106
六甲山の旗振り山 /
柴田 昭彦
2012年2月発行



旗振り通信の図

実施日：平成24年1月21日（土）
午後1時～3時45分
場 所：六甲山地域福祉センター

第106回テーマ： 六甲山の旗振り山

- 旗振り通信の概要
- 旗振り通信の再現実験
(TV録画)
- 六甲山の旗振り山の紹介



講師：柴田 昭彦 プロフィール

1959（昭和34）年兵庫県出身、52歳。1982（昭和57）年大阪教育大学（地理学専攻）卒業。大阪府下の小学校・養護学校に勤務。現在、大阪府立東大阪支援学校首席・教諭（小学部所属）。2006年『旗振り山』（ナカニシヤ出版）を出版、各地にある旗振り山の实地調査を進めている。

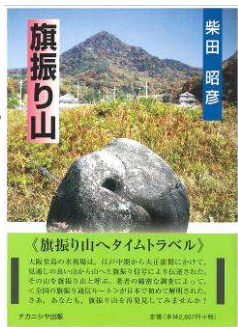
冷え込んだ六甲山でイベントの準備

快晴の六甲山は午前10時で-4℃、ガイドハウスにボランティア8名と西山ファミリー4名が集まりました。定例の環境調査を行い、29日に開催する冬のパークレンジャーのため安全ロープ張りも行いました。二つ池の水位は少し低く、氷で覆われていました。来週は冬景色に恵まれそうです。

柴田さんは卓越したフィールドワーカー

柴田 昭彦さんは『旗振り山』（ナカニシヤ出版）を著しています。京都地名研究会の会員であり、山名や地名の实地検証などの実績が豊かな方です。

大阪の米相場の状況を手旗信号で各地に伝えたのが旗振り通信です。六甲山の旗振り山も旗振り通信をした所です。近畿・西日本など各地に名前や痕跡が残っていますが、その歴史が忘れ去られていく状況です。失われる歴史を残すために、現場を訪ねて綿密な野外調査を続けておられます。「本格的な旗振り山研究者は世界で私一人だ」と自負し、ライフワークにされています。



著書『旗振り山』

旗振り通信の再現実験から紹介

柴田さんは事前に市民セミナーや記念講演を受講して、入念に準備をされ、早期に大部のレジュメも送って来られました。講演は分単位のタイムスケジュールを組んで、受講者の理解を高める配慮をされていました。

まず、旗振り通信の概要です。江戸時代の享保15年以来、堂島の米相場の値動きを全国各地に旗振り通信で伝えたこと、その中継地の旗振り山が選ばれたこと、旗と望遠鏡を使った通信の方法などを解説されました。

そして、30年前に行われた旗振り通信の再現実験のTV録画、ご自分が監修したTV番組「タイムスクープハンター」

の放映と続きました。これで幻の「旗振り通信」のイメージが鮮明になりました。持参された赤旗を使い、旗の振り方も実演されました。

後半は六甲山に残る旗振り山の伝承について説明され、旗振り山の实地検証の難しさを語られました。忘れられていく歴史に脚光を当てようとする柴田さんの熱意に、受講者一同は敬服しました。



「タイムスクープハンター」より

歴史を考証するエネルギーに接した

六甲山の旗振り山の名前は有名です。江戸時代の旗振り通信の再現を目にして、時代背景や通信技術の推移なども理解できました。柴田さんが旗振り山の歴史を考証される思いに接して、事実に肉薄する緻密な探求心に啓発されました。歴史や伝承を記録して後世に伝えることの大切さを実感した講演でした。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 重野 南男さん

柴田氏による旗振り山セミナーがあることを知り参加させていただきました。私は20年ほど前に神戸市主催の六甲縦走を3回ほど参加しました。その時の思い出の地名や日ごろから接している山名の由来を先生の説明を聞いたことや、休憩中に須磨の旗振り山で本当に振られていたかという質問にも丁寧な回答や、そして皆様の暖かいおもてなしにも感謝の気持ちで一杯です。どうもありがとうございました。



主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

大阪コミュニティファンド（東洋ゴムグループ環境保護基金）、イオン環境財団、コープこうべ環境保護基金



第106回テーマ：六甲山の旗振り山



第106回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:05～13:15
2. 講演：13:15～14:15
3. 休憩：14:15～14:25
4. 質疑応答：14:25～15:45

講演

- 旗振り通信の概要
- 旗振り通信の再現実験（TV録画）
- 六甲山の旗振り山の紹介



六甲山の旗振り山マップ

講演の挨拶（柴田 昭彦さん）

全国の旗振り山を調べているのは世界中で私1人だけだと自負している柴田です。全くの趣味で忘れられた歴史を残すためフィールドワークを基本に研究しています。今日はビデオ中心に分かりやすく説明します。



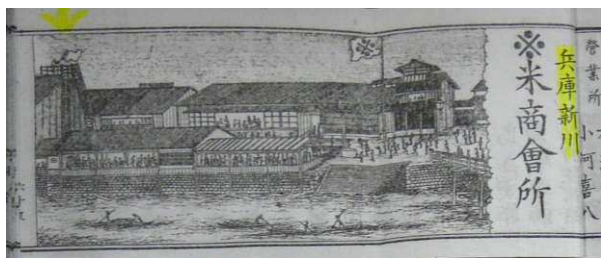
旗振りを実演する柴田さん

講演内容

1. 旗振り通信の概要

■日本の経済も左右した最新鋭の通信手段

享保15年（1730）、大坂・堂島の米会所が公許、その米相場が各地の米取引の基準となった。米相場の上下で利益を上げようとする人々が一刻も早く相場を知ろうと、旗振り通信を始めた。東は江戸、西は下関までつながっていた。江戸へは8時間程度（箱根越は飛脚で7時間）、広島へ30～40分で到着し、時速250～750km。飛行機並みの速度で当時最速の通信手段であった。



兵庫米会所の檣上で旗振り 明治15年「豪商新兵湊の魁」

幕末には全区間で公認、明治期は取引所に檣が組まれ、旗振通信社という会社組織で行われるほど発展した。電信電話ができては時間も費用を要したので、専ら旗振りが使われた。大正3年に予約電話ができ、旗振り通信は大正7年に終焉を迎えた。

■通信中継地が旗振り山

旗振り場は見通しが第一である。山の頂上はガスが発生しやすく、旗振り師が重い望遠鏡を抱えて1時間以内で登れる山の中腹の平地や開けた堤防などが選ばれた。区間の距離は江戸期で6～26kmで、明治期はやや短くなる。それ以上の距離では天候により見えないことが多かった。関東では旗振り場の伝承が消えているが、関西ではたくさん残っている。相場山・相場取り山・旗山、畑山も旗振り山だ。

■道具は旗と望遠鏡が必須

旗の大きさは1畳程度。色は望遠鏡で見てはつきり浮かび上がるものを選んだ。棟梁が管轄エリアを設け、兵庫から岡山にかけては白と赤を、大坂から近江には白と黒などと決めていた。

望遠鏡は20～25倍で長いものは1m。ぐらつくので三脚で固定した。日本製、フランス製、ドイツ製で、明治末期や大正期は双眼鏡も用いた。

■確実な伝達には熟練技とシステム化が必要

旗の絡み付き防止で、旗を回転させて回転数で数値を表わし、数字を文字に変えることもできた。

慎重になるあまり、一人では数字を読み取ったら覚えられない。1人が書きつけるか、即時に書きつけて送らないとわからなくなる。確実さの保証のため種々の方法があった。例えば「合印」は12に対して34の数字が対応するなど決め、12を振った後にすぐに34を振って確認できるようにした。

金儲けのため途中で信号を盗む者がたくさんいたので暗号表を用いるセキュリティが確立していた。江戸期は山に脅迫しに行く輩もいて危険な仕事だった。こういうことが、「日陰者」の存在という観を増長し、伝承がされなかったとも言える。旗振り通信社というのができたのが明治時代。旗振り師として雇われるシステムが確立した。

2. 旗振り通信の再現実験（TV録画）

■再現実験の前に入念な現地調査

西宮の吉井正彦氏（当時会社員、元国立民族学博物館客員教授）が昭和55～56年に兵庫県の旗振り山を全部探そうと現地調査をした。旗振り通信終了後70年で、当時80～90歳の人でないとならない。早く取材をしないと歴史が消えてしまうと、あせってやった。大学生中心の西宮ボーイスカウトグループが古いルートを実地調査し、20の旗振り場を全部探しだした。

旗振り通信を覚えている人にインタビューもした。明治37～38年頃、金ヶ崎では当時梅林だった奥の方に小屋があり、望遠鏡で見て旗を振っていたという。この時、遠眼鏡も見つかった。



黒田家で見つかった遠眼鏡

■スモッグに阻まれた再現実験

昭和56年（1981）12月、彼らは大阪から岡山の27の中継点（2倍の中継点を設置）に50人を配置し、旗振り再現実験を行った。

2時間20分後に岡山に届いたが、神戸の間でスモッグが酷く、金鳥山では鉄塔に身体を縛りつけて通信したが全く見ることができず無線でつないだ。明石からは岡山まで順調に通信できた。空気の透明度が昔と全く違う。江戸時代は20km先まで一気に抜けたが、現代の空では5kmくらいでようやく通るのではないか。



金鳥山鉄塔での旗振り再現

■正確に送るのは相当難しい

昭和59年(1984)、NHK番組「ウルトラアイ」で大阪-神戸の再現実験を行った。堂島から武庫川堤防-金鳥山-諏訪山経由神戸港で、高層ビルで中継し、ビルの中を反対側に走り抜けたり、短く中継地点を作ったので24分程度で伝達できたが10円もの誤差がでてしまった。昔の伝達技術がいかに高かったかを示すものとなった。

3. 六甲山の旗振り山の紹介

■六甲山付近に旗振り山がいくつもある

旗振り山を地図上にプロットした(前ページ写真)。堂島から、諏訪山、高取山、梶尾山、須磨の旗振り山、明石の畑山というふうに西に抜けていった。

■金鳥山は旗振り場がよくわかっている

保久良神社裏の金鳥山の送電線鉄塔からちょっと下がった平地が旗振り場である。日地出版(ゼンリン)地図「六甲・摩耶」の著者のひとり・佐野悦男さん(元教員)が、「昔、崩れた小屋があり旗振りさんが旗を振っていたと教えられた」と証言している。今も何の標識もない。案内板がある所は神戸では有名だが、案内板がないと忘れられている。



金鳥山から西の旗振り山～左から旗振り山、梶尾山、高取山

■伝承が途切れた神戸の旗振り山

旗振り通信の終了後70年経ち、伝承が途切れている。諏訪山、高取山、須磨の旗振り山は記録が残っ

ているが証言者はゼロだ。一方、神出町の旗振り山では須磨の山から信号が来ていたとの証言がある。明石金ヶ崎でも高取山を望遠鏡で見ているという。

山口町の

畑山は昔は

旗山だったが、由来が忘れられてしまい、耳で聞いて畑山になった。灘区・坊主山の南端・大阪台は『プレイランド六甲山史』の序文に旗振り場と出ている。文献では御影で旗振りが行われたとあるが、大阪台だった可能性もある。裏づけは難しいが探索を続けたい。

質疑応答

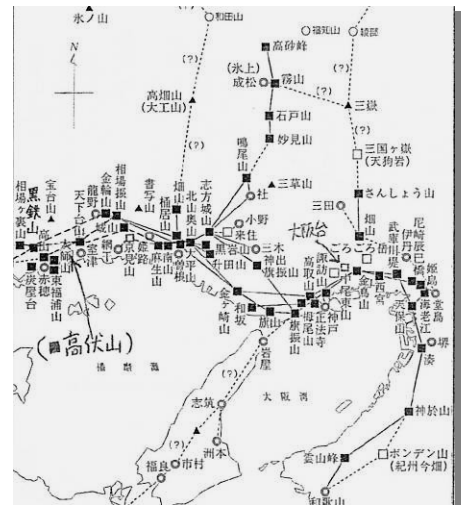
明治期で商工名鑑に仕事や会社が残っていることはあるか? : 会社は分からないが、ある。「豪商新兵湊の魁」図で取引所の屋上で旗を振っている。
職業名は? : 旗振り師、正式には旗振り通信員。

講演のまとめ(柴田さん)

オリジナルの情報は大切と思っている。誰もやってないからやる。みんなの知らないことを情報として発信したい。旗振り山は本当に忘れられた歴史だ。著書には新たに30箇所以上の追加が必要になった。今後も探索を続け、情報として発信したい。

事務局より

旗振り山に関して、オンリーワンのオリジナルティを突き詰められる姿勢には感銘を受けた。消えて行くものにも今に伝えて活用すべき大切なものがあるのだと主張されている、と受け止めた。我々の活動にも生かしていきたい。



阪神間の旗振り山

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ:「六甲山の旗振り山」
- ・TV録画:「六甲山の旗振り通信再現実験」、「タイムスコープハンター」など
- ・著書:『旗振り山』/ナカニシヤ出版
- ・参考資料:六甲山付近の山名等の由来について、など

柴田 昭彦:しばた あきひこ
大阪府立東大阪支援学校 首席・教諭
〒572-0011
寝屋川市明徳2-6-C9-502
電話:072-820-2769 FAX:072-820-2769
e-mail: ey9mh2@bma.biglobe.ne.jp

◆参加者の声

- ・よくぞここまで調べられた、すごい!の一言です。
- ・旗振り通信に因む様々な資料を紹介していただいた。
- ・旗振り通信の再現ビデオで当時の状況が想像できた。
- ・「忘れられた歴史」を復元する執念に敬服した。

◆参加者:17名(50音順・敬称略)

泉 美代子 板野 武一 大島 貴之 岡井 敏博
岡本 正美 岡谷 恒雄 尾崎 尚子 重野 南男
重野志津子 柴田 昭彦 高木 應光 田邊 征三
徳見 健一 堂馬 英二 前田 康男 村上 定広
吉川 知里